

みのひろし後援会だより

編集・発行/みのひろし後援会 会長 岩崎正司(事務所 山県郡北広島町南方 2830)

電話 0826-72-2618 きたひろネット 050-5812-4661

亀岡会長の後任として

後援会会長 岩崎 正司

植え付けられた田圃も日一日と緑を増し、山の新緑と共に美しい季節となりました。後援会会員の皆様、町民の皆様には、益々ご健勝のことと察し、お慶び申し上げます。

後援会会長として、すばらしいリーダーシップを執って頂きました亀岡会長が一身上の都合で、昨年八月末付で、高田幹事長宛に辞表を提出されました。副会長三名で協議の結果、千代田の岩崎が務めるべきだとの結論になり、その任に当たらせて頂いております。

昨年三月の町長選挙で、箕野博司候補は、後援会会員皆様のご支援をもとに、広く町民皆様の絶大なご支持をいただき、箕野町政二期目のスタートを切られました。それから早や一年と数か月。この間も町内では、七月の集中豪雨被害や異常寒波による用水不足等発生しました。

箕野町長は、先頭に立って対処され被害を最小限度にとどめられました。

中国地方で最大の面積を持つ北広島町。新町誕生から十四年目を迎えております。過疎高齢化や財政難等の課題を抱えながら、箕野町長は、一期目に引き続き、選挙公約である「協働のまちづくり」「人づくり」を基本とし、山積する諸課題解決に挑戦実行されております。後援会としても広く町民皆様のご意見を伺いながら、後援会規約にある「元氣な北広島町

をつくる」ことを目的として進んで行かなければなりません。これまで同様、よろしくお願い致します。

最後に、町民の皆様、後援会会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



平成三十年度の

スタートにあたり

町長 箕野 博司

年々、春と秋が短くなつてきたようで、今年も暑い夏が長くなるような気がします。二期目も、一年と二ヶ月過ぎましたが、皆様にはいつも温かいご支援をいただき感謝しております。

昨年は、本町の憲法ともいふべき「北広島町まちづくり基本条例」、そして、十年間のまちづくりの指針となる「第二次北広島町長期総合計画」を策定いたしました。

北広島町では、昨年度七月に豪雨災害があり、本町ではお一人の方がお亡くなりになり、六百人にも及ぶ災害が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申しあげますと

共に、被災された皆様に心からお見舞いを申しあげる次第です。今復旧工事を急いでいるところでもあります。

また、この冬も大寒波・大雪に見舞われ、水道凍結など多くの被害がありました。今年度は、こうした災害がない事を願うものです。これからの地域を担ってくれる「ひとづくり」と、町民の皆様さんとの「協働のまちづくり」とを大切にして、取り組みを進めているところです。

今年度からは本町企画課と各支所に、新たに地域づくり係を設けました。まずは、地域協議会等で協議し、地域の活性化に向けて、その地域づくり係の職員も一緒に取り組んでいきたいと考えていますので、よろしくお願いたします。

また、今年度から、北広島町子育て世代包括支援センター「ネウボラきたひろしま てくてこ」(愛称:てくてこ)を開設しました。母子保健と子育て支援を一体化した、切れ目ないサポート体制により、安心して妊娠・出産・子育てができる町を目指してまいります。



これから更に、少子化・人口減少が急速に進み、経済や町の財政規模が縮小していくという、これまでに経験したことのない時代にあつて、多くの課題解決に挑戦していかなければなりません。

本町の財政状況も非常に厳しいものがありますが、こういう時だからこそ知恵を出し工夫していかなければなりません。経費等の節約・削減を図ることは勿論ですが、民間活力を活かすなど新しい取り組みを模索し、少ない財源で最大の効果をあげて参ります。

町民の皆さんと共に力を合わせてこの難局を乗り越え、さらに「明るく元気なまちづくり」を目指します。将来への負担を少なくし、素晴らしい北広島町を未来に繋げていくために、全力で努力して参ります。町民の皆様、後援会の皆様には、今後ともご支援・ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、皆様のご健勝・ご活躍を、心よりご祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。



支部だより

八幡高原の今・・・

芸北支部 小笠原幸信

芸北も初夏を迎え、カキツバタや水芭蕉が美しく咲く季節となりました。八幡高原は今年の冬は積雪が二百センチを越えましたが、時と共に自然の力はすばらしく、雪はなくなり、絶好の季節を迎えようとしています。

昨年春に、八幡高原に風力発電施設建設の計画が持ち上がり、八幡高原の自然、景観、環境が大きく改変されようとしています。建設地は八幡高原と島根県との県境沿いの島根県の土地ですが、八幡地区住宅から非常に近い距離となります。

景観の悪化・騒音・夜間の投光器の光・低周波等の影響、動物・鳥類・植物等の絶滅等々、考えられる中で、企業による配慮書(計画案)が示されました。閲覧してみますと、より大変な計画だと再確認し、「八幡高原の景観と環境を守る会」を結成して、建設反対に活動し始めました。

広島県や北広島町にもご理解をいただき、配慮書に対する意見書にも力強いご意見をいただいています。

建設決定か中止かは、まだまだ数年かかります。二百センチ以上の雪は、春になると何もなかったかのように消えてしましますが・・・高さ百五十メートルになる風力発電施設は消えませんが、もしその十七基が建設されるなら、八幡地区・島根県波佐地区に住民がいる限りは、あらゆる方面に三百六十五日影響があると考えられます。

自然エネルギーにも関心を持たざるを得なくなる時代になっていますが、八幡高原に風力発電施設を建てるのが適切なのか、皆さんと共に、これからも考えてみたいと思いますので、ご意見をいただければ幸いです。



私とグラウンド・ゴルフ

壬生支部 住田寛美

私がグラウンド・ゴルフを始めたのは、約十七年前のことです。その時は、私の集落の二十四名程度でクラブを作り、小学校のグラウンドでよく練習したものでした。年に一度は、貸切バスで、鳥取県のグラウンド・ゴルフ発祥の地「泊(とまり)」へ一日で行き、グラウンド・ゴルフと、夜は酒を飲みながら懇親を深めておりました。

現在は、千代田グラウンド・ゴルフ協会の主催で、北部地区(北広島町・安芸太田町・安芸高田市)の大会を月一回、千代田グラウンドで開催。これによって北部地区の多くの参加者と顔見知りとなり、また、県協会主催の大会に参加し、広島県各地の方々とも懇意になり、グラウンド・ゴルフを通じての良さを改めて感じています。

私も八十歳に近づいて参りましたので、あと何年グラウンド・ゴルフができるかわかりませんが、皆様の力を借りて体の続く限りお世話が出来たらと思っております。

最後になりますが、千代田にも自由にグラウンド・ゴルフが

山県郡のブドウ栽培

について

大朝支部 田川和三

昭和三十年代半ば、旧加計町安野において、沼隈郡出身の普及員から指導を受け、初めての市場出荷が始まった。品種はキヤンベルアーリーで、特性は「年間降水量が六百ミリまでは露地栽培が可能」と「耐病性が高い」こと。県内の産地は殆どがこの品種であった。

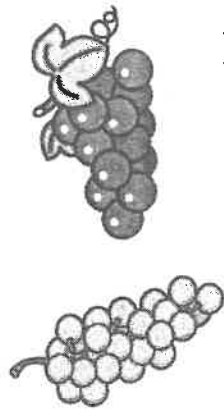
四十年に入ると、千代田蔵迫地区でデラウェアの産地が誕生した。「息子の学資を得るために」と話されていたが、真剣さが伝わってきた。既にこの時代には、ジベレリン溶液による無核化技術が発見されていた。普及所は使用する希釈液を毎年供給していた。品質は良く好評で、百パーセント地元で完売されていた。

平成に入ると、既に巨果無核時代で、千代田・大朝地域のピオーネ生産組合が結成された。栽培にはビニールハウスが必要で、また特に盆前出荷を目標にするため、ガスバーナー・ストーブ等の暖房機器の整備費を多く要した。

平成十年代になると、大朝で赤ワイン用ブドウの栽培が始まる。山ブドウの改良種で、小粒で強健な特性なので、露地栽培ができる。樹の仕立て方も牧柵型でよく、安価で容易だ。最近では企業が参入し増収が期待されている。芸北地域でも草地跡を利用して、原料用ブドウ団地を運営している。

ブドウはアルカリ性食品で、肉類や糖分を多く摂る現代人には、最適な食品である。栽培が容易なので、自給を図り、生食でもワイン加工でも良い、生活の中に溶け込んだ姿が望まれる。

今は、皮ごと食べる巨果無核時代で、緑のシャインマスカットやロシア生まれの赤いゴルビーなど、ブドウ界も急激に進歩している。



広島カーブと私と孫と

八重東支部 佐久間博

昭和三十年の中頃から、私が小学五、六年生頃だと思っ地域の方々と野球観戦に行っ

た思い出がある。千代田の地から広島までは、今でこそ一時間もあれば充分であるが、当時はおそらく今の倍以上要したであろう。平和公園で、持参した昼食を済ませ、歩いて広島市民球場へと入る。試合はダブルヘッダーで、二試合続けて観戦するため、観る方も相当疲れたと思う。勝敗や相手チームがどこであったか記憶にはないが、市民球場が広く大きいイメージだけが残っている。

当時は、入りの悪いラジオで野球中継を耳にするのだが、野球観戦を経験した後は、アナウンサーの一言ひとことを、実際にリアルに感じ取ることができたものである。

今では、市民球場は場所も移動し、名称も「マツダズームズームスタジアム」と改称され、毎試合が超満員で、入場券を手にするこすら困難な状況である。

昨年までは、孫たちと年三、四回程度観戦できていたのに、今年は一度きりと悲しい限りである。一回きりの観戦だが、赤いユニフォームの小学三年男児と小学一年女児の応援する姿を見ていると、応援団の笛やトランペットに合わせ、応援グッズのバットのリズムよるしく、あらん限りの大きな声を張り上げて、

できる場所をつくってもらい、町民が笑顔で声かけ合え、いつでも元気で過ごせるよう町へお願いいたします。

町長さんは、誰にでも笑顔で声をかけられ、「感じがいいよねー」「ええよのー」という声をよく耳にします。これからも健康で住みよい北広島町を目指して頑張ってください。



「かつ飛ばせー、キクチ」「かつ飛ばせー、セイヤ」と連呼する。実に一生懸命である。何事につけ一生懸命は気持ちいいものだ。自分も見習ってみたい。

孫たちに教えられた気がした。



古保利福光寺(廃寺)と仏像群

(薬師如来と十一体の仏像)

古保利薬師奉賛会顧問 高田順郎

古保利は、かつて古保利山に伽藍を持った金蔵院福光寺という真言宗の寺院として、約五百年間繁盛を極めた。

福光寺の開基は「嵯峨天皇の弘仁年間(八一〇〜八二四)に、弘法大師(七七四〜八三五)が巡錫の折この地に来られ、自ら仏像を彫られて寺院を創建した。」と伝えられている。

しかし、その時期から中世までの明確な資料は残されていない。史実として、室町時代に駿河の国から吉川駿河守経高公が大朝を含めたこの地方の地頭職となつて着任(一二二二)し、当福光寺を戦勝祈願所並びに菩提所としたことから益々栄えて、寺領三百石塔頭(末寺)四十九坊を数えた。

ところが、関ヶ原合戦(一六〇〇)に吉川氏が西軍に加担したことから周防岩国に移封され、福光寺は衰退の一途をたどる。当時の建物の本堂五間四面、庫裡六間に四面も解き崩され、仁王門と神社、小堂を残すのみとなつた。無住となつた小堂の仏

像群は無残にもホコリとクモの巣の中に雑然と放置状態にあつたと言われている。

大正年間終わり頃から地元古保利の人たち、町の有志の方々から、仏像に対して維持・顕彰の機運が高揚し、各関係機関・仏教美術専門家に調査と顕彰を働きかけた結果、昭和十七年に国から最高の評価と認定を受けたのである。その結果、薬師如来は国宝に指定され、ほか十一体は重要美術品(法改正により昭和二十五年以降重要文化財)となつた。

薬師瑠璃光如来 (重文)

日光・月光菩薩 (重文)

千手千眼観音菩薩 (重文)

吉祥天 (重文)

四天王 四体 (重文)

他に薬師如来の守護神として

十二神将

これだけ多く揃つた仏像群(平安時代初期)は、中国五県下は勿論のこと、全国地方寺に遺存している処はないであろう。

現在は、北広島町役場の管理のもと、昭和十年に結成された尚古会(現在は奉賛会に名称変更)の会員で仏像への尊敬の念を持ちつつ優れた仏教美術として、全国の愛好家に、町の協力のもと広く報知展開を行なっているところである。

紙面の都合上、ご本尊のみ資料に基づいて記述する。

薬師瑠璃光如来

半丈六の坐像

(吉祥座右脚が上向き)

カヤの一木彫

背ぐり有り

座高 1.22m



【頭部】
螺髪(巻き毛状の髪)は欠落。頭部中央部の半球形は髻ではなく、肉の盛り上がりで頂けい相と言う。如来の特長の一つで慈悲と知恵がある。

【印相】
手の形のこと。右手を施無畏印と言ひ、おそれを取り除く意味。左手は与願印で、願いを叶える印。薬師如来は心身をいやす薬つばを持つている。

【着衣】
シツタルダ太子(釈迦如来)が出家した時の姿で、納衣のみをまとい、右肩を脱いだ姿を(偏袒右肩)と言う。悟りを開いた後の像の形である。

後援会だよりをご覧いただきありがとうございます。

後援会会員募集

後援会にまだ入っておられない方で、ご入会いただける方は、支部長等役員にお伝えいただけます。幸いです。

【私見】古保利の薬師如来の丸々とした慈愛に満ちた尊顔とふくよかで優しさを表す仏手、そして分厚い胸とどっしりした腰部の迫力ある美しいお姿は、思わず見惚れると同時に、抱擁されたい気持ちを感じる。拝顔するほどに尊崇の念を禁じ得ない。仏像群を修補された白石義雄(奈良)によると、如来の仏手は、奈良新薬師寺の本尊(平安初期 国宝)をイメージしながら新造したそうである。